

楽しさの中で川を知る ... 川の遊び

昔から、子どもたちは遊びの中で川のことを知り、自然の豊かさやおそろしさ、それに対する心構えを学んできました。川での体験は、変化へ対応する力を養うことにもつながります。ただし、川には危険も多いので、指導者などおとなが事前に確かめた上で、いっしょに行動しましょう。⁴

水切り（石投げ）

水面すれすれに石を投げ、できるだけたくさんはねさせる遊びです。なぜはねるのか？ はねない時もあるけれどそのちがいは何か？ 考えるとけっこう難しいですね。



タンポポ水車（フキでもできる）

タンポポのクキを切り取り、両はじに切れこみを入れます。水につけると切れこんだ所がそり返るので、クキの穴に細いじく（マツ葉など）を通して弱い流れにそっとふれさせます。フキだとがっしりした水車ができます。細い枝を通し、Y字の枝でじく受けにします。



石のダム

大きめの石で浅せの流れをせき止めます。ただそれだけなのですが、しっかりしたものや大きなものはかなり技術がいります。バリエーションとして橋や池づくりもあります。小さな入り江をつかって、ウグイの子どもなど小さな魚を追いこんでみたらどうでしょう。



草舟

ふつうはササの葉で作りますが、河原にはなかなか見あたりません。少し葉が細くて作りにくいですが、ヨシやススキの葉を使ってみましょう。

必要なもの とくにないが、ササの葉を用意してもいい



イラスト：伊藤 由紀子 氏

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん

時（Emergency）という意味があるという。（『Eポートオフィシャルサイト』より）
 3 ライフジャケットを正しくつけて：ライフジャケットを正しくつけない場合、口や鼻が水面より下になってしまうなど、安全にうかがうことができなくなることもある。

4 川の危険と指導者（かわのきけんとしどうしゃ）：水に入る活動の時は、場所、深さ、流れ、あるいは底の状況などを事前に確認の上、はだしをさけ、ぬげにくくすべりにくいのはき物をはく。また、ぬれることを想定して着がえなども用意しておく。